



フジタガンカニュース

Vol.143 2022.8.30



眼科とアトピー性皮膚炎のタダならぬ関係①

お盆も明けまして夏休みもそろそろ終了。新型コロナの感染状況も例年通り徐々にピークを越えつつあるようですね…まだ感染状況が落ち着いたとは言えない位の新規感染者が出ていますので、引き続きの注意は必要という状況ですが。最近マスコミを賑わしている話題として「新型コロナの新規患者数の全数把握は必要か？」という議論があります。新型コロナの患者さんがどのくらい発生しているかを知ることはあまり意味がない、その発生数をカウントする事に掛かっている労力を実際の診察や治療に移動させれば医療崩壊を食い止められるのではないかと考えています。確かに、これだけ数が多いとその集計に掛かる労力が甚大であることは想像に難くありません、その労力を減じることも一つの考え方ですが…数えることを完全に止めてしまうと感染の状況が拡大傾向なのか縮小傾向なのか？どの地域でどの世代に感染が多いのか？少ないのか？など、感染対策を考える上での基本情報が失われる可能性があります。また、感染者のカウントを止めれば崩壊気味の医療を救える？というのはある意味暴論とも言え、結局感染者の数が予想や予定、対応できる設備や人員をはるかに超越して増えてしまった場合には「上手くやれる方法」なんてある訳がないのではないか？と思います。今後の感染状況の予測、それに対応した準備は必要だと思いますが、その予測通りにならないのが今回の新型コロナ感染の難しさなのかなあ？と個人的には思っています。

さて、今回のフジタガンカニュースは引き続きアトピー性皮膚炎についての解説の引用です。

@@

アトピー性皮膚炎にはドライスキン、二次感染、ストレス、アレルギー環境などの色々な要因が影響しますので、治療は患者さんのタイプによって異なります。ステロイドは現在でも、各種のアレルギー疾患の治療に最も確かな有効性が期待できる薬です。よく効く薬には副作用もあり、巷ではその面ばかり強調されすぎて、ステロイドの不適切な治療が行われることもあります。ステロイド治療を急に中止したための副作用が、眼合併症を誘発することもあります。最近では他の免疫抑制剤などの有効性も検討されていますので、皮膚科専門医とよく相談し、タイプにあった治療をすることが大切です。



アトピー性皮膚炎について

わが国では住環境の変化とともにアトピー性皮膚炎の患者が増加し、治療してもなかなか

よくならないケースが多くなっています。アトピー性皮膚炎は乳幼児期または小児期に発症し、よくなったり悪くなったりをくり返しながらかつてきたのがふつうでしたが、最近は慢性化して成人のアトピー患者になったり、思春期以降に症状が出てくる患者が増える傾向があります。@@
 @@@@@@@@@@今月の引用はここ迄です、続きは次号をお楽しみに。新型コロナ感染については、欧米ではコロナ感染が先に広まっている為に日本の状況を先行している、というのが現状考えられるストーリーです。今後、欧米のように感染状況が収まって行くのであれば、通常の生活に戻れる日が少しずつ近づいてくるのかもしれないですね。

2022年~23年冬季休診日程

| | 12/28 | 12/29~1/3 | 1/4 |
|----|--------------|-----------|--------------|
| AM | ○ | × | ○ |
| PM | ○ | × | ○ |
| | ※ × . . . 休診 | | ○ . . . 通常診療 |

今月のお知らせ

10/28(金)午後は休診(院長が第10小学校の就学時健康診断に出席する為)となります。また、本年度の冬季休診は上記日程です。御迷惑をお掛け致しますが、ご理解の程お願い致します



<http://www.fujita-ganka.com>

FUJITA-EYE-CLINIC
藤田眼科
 エフ・ビジョン(コンタクトレンズ販売)
F-Vision

☎ **042**
(645)
0575
 ☎ **042**
(642)
2911